次号の特集予告

276巻12号（2021年3月20日発行）

ケトン体による生体制御

企画：福原淳範（大阪大学大学院医学系研究科肥満脂肪病態学寄附講座）
　　　下村伊一郎（同内分泌・代謝内科学）

- ケトン体は脂肪酸酸化で生じたアセチルCoAから産生されるアセトン，アセト酢酸，3-ヒドロキシ酪酸の総称である．飢餓状態では脂肪組織から脂肪酸が放出され，肝臓で脂肪酸酸化を受けることで産生される．
- 近年，ケトン体自体が受容体を活性化してシグナルを伝達することや，ヒストン修飾を介したエピジェネティックな遺伝子発現制御を行うこと，細胞内のシグナル因子を変化させることが報告されている．
- 本特集では，エネルギー基質としての側面とシグナル因子としての側面から，ケトン体の生体制御に関する臨床的および基礎的研究の最新の知見を，第一線の先生方に紹介していただく．

2026/09/18 13:24:45